

2025年改選後、最初の定例市議会 選挙公約実現、市民の暮らし最優先の市政を求め論戦

日本共産党
静岡市議会議員団

ニュース

2025 - No.1

日本共産党静岡市議会議員団
議員控室 TEL 054-254-2111
(内) 4541

FAX 054-272-4695
アドレス http://www.jcpss.jp/
メー ル yk5f5@jcpss.jp

6月定例議会が6月18日（水）から7月10日（木）の日程で開催されています。

◇◆◆◇

6月補正予算（案）は、一般会計28億413万円余で、予算（案）の特徴は以下の通りです。

1. 地域経済の活性化

①旧足久保小学校の活用で、民間事業者が実施する校舎等の改修費助成3億円

②南アルプスや井川地域の自然環境や地域資源を体感・周遊するコンテンツの造成 1500万円

③建物の新築・増改築、リフォームに使用するオクシズ材の費用に助成5100万円

④市の工芸品の販売額の拡大に向けた総合的な支援 2000万円

⑤静岡市の定番となるお土産商品創出のアイデアコンテスト 200万円

⑥従業員の奨学金返還を支援する企業にその費用の一部を助成 1000万円

2. 文化・スポーツの推進
①企業版ふるさと納税を活用したIAIスタジアム日本平の背もたれ付き座席を5000席以上に更新 1億8300万円

②清水庵原球場敷地内にパラスポーツ優先の屋内運動場を整備 5940万円

3. 教育環境の充実
①新通小学校内に不登校の中学生が学べる「学びの多様化学校」（末広中学校分校）を整備 8900万円

②使途が決まっている寄付を利用して、服織小学校に門扉とフェンス、服織中学校にテントと保管倉庫の設置 1000万円

4. 安全・安心の確保
①緊急出動件数の多い葵消防署管内に高規格救急自動車1台配備 6200万円

②デジタル技術を活用した災害時の安否確認システムの設計 1000万円

③動物愛護センターの機能を林業センター跡地への移転、再整備 1億440万円
④三保真崎グランドゴルフ場の移転整備に向けた測量、地質調査、設計 4800万円

6月定例会 会議日程 各常任委員会日程

会期：6/18～7/10（23日間）

会場：静岡庁舎本館

開会：午前10時から

○本会議（議案上程）

6/18（水）

○総括質問

6/26（木）

6/27（金）

6/30（月）

○本会議（議案質疑・

討論・採決）

7/10（水）

○常任委員会

7/2（火）

・総務委員会

・企業消防委員会

・市民環境教育委員会

7/3（水）

・厚生委員会

・観光文化経済委員会

・都市建設委員会

※本会議（総括質問）は静岡市ホームページから視聴できます。

6月議会での総括質問

— 6月26日（木）・27日（金）・30日（月） —

代表質問

内田りゅうすけ議員

6月26日（木）

午後2時頃

1. PFASへの対応について



三井・ケマーズフロロプロダクツ(株)は、これまで住民説明会の開催を求められても、一切応じてきませんでした。静岡市も、「説明会の要望は

ない」と会社と同じ対応を繰り返してきました。質問では、説明会の要望があることを具体的に示し、開催を求めます。

2. 学校給食について

船越地区に予定していた、1万食給食センターの建設が中止になりました。そのための代替案と自校・親子方式の継続、学校給食の無償化を求めます。

3. 清水庁舎への対応について

清水庁舎は、今年度中に改修か移転新築かの判断をする予定です。判断するうえでの住民意向調査について、移転新築案予定地は津波浸水想定地域にある問題点について質す予定です。

総括質問（一問一答）

杉本 まもる議員

6月30日（月）

午前（予定）

1. 人口減少対策について



市の調査でも、子育て支援は重要な人口減少対策であることが明らかになっています。

①子どもの医療費通院費の無償化について

県内では31市町ま

で通院費無償が進んでいます。本市も早急に実施するよう求めます。

②幼児教育・保育の第1子からの無償化について

人口減少対策としても、他都市に先駆けた、先進的な支援が必要です。全国の政令市に先駆けて、保育料の第1子からの無償化をおこなう考えはないか、市の姿勢を質します。

2. 小規模修繕事業者登録制度について

昨年12月民主商工会のみなさんが制度の創設を求め市長と懇談、市長も研究すると応じました。これを踏まえて、制度を創設する考えはないか質します。

総括質問

寺尾 昭議員

6月30日（月）

午後（予定）

高齢者の元気な活動さらに

後押しを



高齢化社会と言われる中でも元気に毎日を送っている方々の

活動を後押しすることは、さらに元気と健康を継続することになり、地域経済の振興にもつながります。医療・介護費用の抑制にも貢献できます。外出の機会を増やし、趣味や特技を生かして活躍できるよう、高齢者の居場所づくり、交通費の助成、難聴者への補聴器助成など寄せられた要望も合わせ、市当局の姿勢を質します。

総括質問

鈴木 あけみ議員

6月30日（月）

午後（予定）

保健福祉センターの統廃合について



市は、2026年4月に予定する『保健福祉センターの再編及びこども家庭センターの機能強化（案）』について、今年1

月にパブリックコメントを行いました。市民からは、現在9か所ある保健福祉センターが3か所に減ってしまうことへの不安・反対の意見が多く寄せられました。一方で、保健福祉センターでの母子保健とこども家庭センターでの児童福祉の支援の切れ目を解消することへの賛成意見もありました。

再編が市民にとってより安心した相談・支援へとつながるのかを問い、保健福祉センターの統廃合ではなく、こども家庭センターの併設・拡充を求めています。

2025年度 所属委員会が決定しました

内田りゅうすけ議員 総務委員会

市議選が終わり、4月1日から議員団も新人議員（女性）を迎え活動をすすめています。私は、引き続き総務委員会に所属することになりました。

委員会では、懸案の清水庁舎の改築・新築移転判断、防災対策、アリーナ建設の問題点など幅広い議論が展開されます。今後も市議選で掲げた公約実現のため全力で取り組みます。

杉本まもる議員 観光文化経済委員会 議会運営委員会 国保運営協議会 避難所環境整備調査特別委員会(予定)

みなさんのご支援で3期目当選を果たすことができました。市議会議員の大切な役割として、市民の声をしっかり受け止め、市政に届け、暮らしやすい静岡市をつくるために、みなさんと一緒に全力を尽くします。

今年度は観光文化経済委員会に所属し、インバウンドをはじめとした観光政策や海洋文化施設、中小企業や農漁業の振興策、勤労者福祉センターのフィットネス施設の存続など幅広い分野で議論します。ぜひ、ご意見をお寄せください。

寺尾 昭議員 市民環境教育委員会 委員長 仕事と定住調査特別委員会（予定）

難波市政2年の検証と市民生活を支える議論を

市長が標榜する「根拠と共感」「温かい市政」が具体的な施策において貫かれているか、市民にどのように受け止められているか、改めて検証を進めます。

本年度は市民環境教育委員会に所属しその委員長を務めます。マイナカードの更新、自治会、生涯学習、地球温暖化、ごみ収集、学校統廃合と小中一貫教育など市民にとって切実かつ身近な課題の審議を進めます。

鈴木あけみ議員 厚生委員会

市議会議員となり、あっという間に2か月半経ちました。この間、新人議員研修や厚生委員会の視察、市議団としての学習会や視察など、市政について多くを学んでいます。厚生委員会は、市民にとって一番身近に市政を感じるところであり、しっかりと皆様の意見を反映できるように学習し、頑張りたいと思います。

日本共産党静岡市議団勉強会

市議団は、毎年度初めに市の新たな施策を中心に勉強会を行っています。今年度は12課16事業を座学で学び、現地視察は環境保健研究所と清水港周辺の2か所を行いました。その一部を紹介します。

不登校対策事業－学びの多様化学校設置－

不登校の児童生徒が全国的に急増し大きな社会問題になっています。静岡市の児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒は、全国平均より高く、対策の強化が求められています。

その対策の一環として、来年4月開校予定で「学びの多様化学校」を設置します。この学校は教育課程の基準によらず、特別の教育課程を編成することができます。授業時間を短縮し、個人のペースで学び直しができるようにします。

具体的には、中学生を対象に新通り小学校内に1学年1学級16人、3学年48人程度で末広中学校分教室を設置し、誰一人取り残さない学びの機会を保障します。

さらに、根本的には不登校をうまないことが大切です。少人数学級とともに、教員の多忙化解消で一人一人の児童生徒に向き合える体制づくりが求められるのではないのでしょうか。

有機農業推進事業－学校給食に有機農産物を－

人にも環境にも優しい有機農業を推進しようと、静岡市はオーガニックビレッジ宣言をしました。日本の有機農業の取り組み面積は26万6千haで日本の耕地面積の0.6%にすぎません。

近年有機農業への期待が高まり、確実に増加傾向にありますが、有機農産物の定義となる①化学肥料や農薬を使わない、②遺伝子組み換え技術は使わない、③農業生産での環境負荷を低減する、の3要件を満たして生産するには大変手間がかかります。さらに、売る場所がない、専門的な知識を学ぶ場所がないなどの課題もあります。

そうした中で、静岡市は学校給食で取扱い、販路を広げる支援を始めています。センター方式でどう取り組めるかなど課題もありますが、小規模な給食センターや清水区の自校方式なら取り組めるのではないかと期待が寄せられています。

上下水道管・施設の地震対策事業 －病院等重要施設の線的耐震化－

水は、川→取水施設→浄水施設→配水池→施設→ポンプ場→下水処理場→川の順で循環します。現在は「矢印」の上水道、下水道ともに面的に耐震化を進めており、10%～60%の耐震化率です。つまり、人命を預かる病院や災害時指令機能を有する役所や消防署、そして避難所などもどこか一つの上下水道管が損傷したら、水の供給が止まることになり、静岡市は重要施設に接続する管路の耐震化は0%です。

そこで、そうした重要施設を優先して、面的でなく1本の線として優先的に耐震化を進め、災害時の水の供給を確保します。一般家庭までの耐震化には一定の時間がかかるので、災害時の水の確保は日ごろから怠らないようにしましょう。

